

(単元) 物語 『伊勢物語』～筒井筒

(本時のねらい)

平安時代文学の「雅」の精華である『伊勢物語』の中でも、最も有名な章段のひとつである「筒井筒」の第三段落を通読し、和歌の修辞も含め、古語の知識と現代語としての正しい読解を定着させる。さらに、前時までの学習を踏まえ、登場人物の心の動きを捉え、和歌に込められた女の心情についても考える。それぞれの設問について自分で答え、それを生徒同士で共有し協議することで「主体的・対話的な学び」を目指す。

(ICT活用方法)

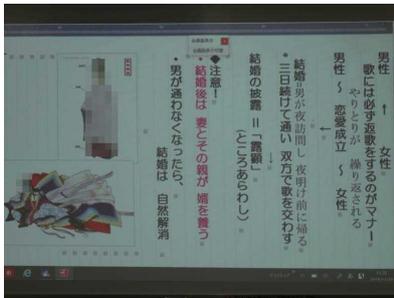
- ・平安時代の風俗・習慣等をより視覚的に分かりやすく説明するために、資料集図版データ等を用いて電子黒板に提示する。
- ・従来は教師が板書していた本文や現代語訳文を電子黒板に提示し、生徒にはワークシートを活用させることでノート作成等にかけていた時間の短縮を図った。知識・読解の指導を効率化することで、自分で考える時間、班のメンバーで回答を共有し協議する時間を確保した。
- ・物語全体の内容の流れを効率的・印象的に復習するために、インターネット上の資料(YouTubeJP 伊勢物語 第二十三段「筒井筒」)動画を見せた。

(本時の展開)

時間	学習活動	指導事項	ICT活用方法	備考
導入 6分	・当時の結婚形態等について再確認する。	・一夫多妻制や通い婚の習慣について確認させる。 ・前時までの概略を確認させる。	・当時の服装の図版入りの解説画面を電子黒板に投影して、結婚形態等の確認をする。	
展開 40分	・ペアになって本文を朗読する。 ・ワークシートに従って各問題に自分で解答する。 ・班で意見を共有し、発表者を中心に解	・読みを確認させる。 ・古語や文法を解説し、現代語訳をさせる。 ・各班の代表者に発表させ、それをもとに	・本文と現代語訳(指導箇所は空欄)にしたワークシートを投影する。 ・生徒の代表に電子ペン等で板書をさせる。	・2～3人組みで互いにチェックしながら音読。 ・5～7人組みでの班別学習。

	答をまとめ る。 ・三人の登場 人物の心情に ついて想像し、 自分なりの意 見を綴る。	全体で考えさ せる。	・「筒井筒」の動画を見て、物 語の全体の流れを再確認させる。	
まとめ 4分	・物語での和 歌の力を知る。	・「歌物語」 としての意義 を理解させる。		

(授業の様子)



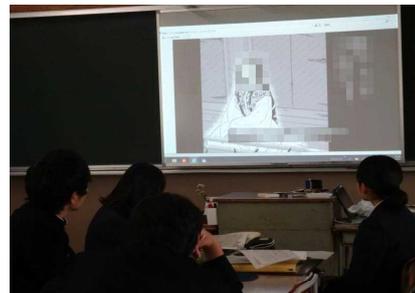
平安風俗を視覚的にも確認する



設問に対する答えを班で協議する



現代語訳の解答を代表者が書く



動画を見て内容を復習する

(生徒の反応と課題、改善を要する点)

電子黒板の活用で大幅な時間短縮が図れた分、じっくり班活動に取り組めた。解(回)答する代表者を随時変更する形態をとったため、人頼みにならず自発的に取り組めた点、班で協議することで思考が深められた点は良かった。生徒の授業態度も活発で「主体的で対話的な」学習に近づけたと思う。

時間的な制約もあり、班代表者の発表は口頭のみで行ってきたが、小型ホワイトボードとタブレットの投影機能を併用したミニ・プレゼンのような取り組みが導入できれば、日常的な授業でも、より表現力を鍛えることが可能だと考える。

